

令和 8 年度 市民と議会の意見交換会（要旨）

- 1 日 時 令和 8 年 5 月 24 日（日） 午前 10 時 00 分～11 時 30 分
午後 1 時 00 分～ 2 時 30 分
- 2 会 場 胎内市役所 5 階和室
- 3 参加者 8 人（午前 4 人、午後 4 人）
議員 5 人 羽田野孝子、坂上隆夫、渡辺栄六、渡辺秀敏、平井孝
- 4 テーマ (1) 子育てしやすい環境づくりについて
(2) 医療、福祉の充実について
(3) 健康づくりの推進について

5 意見交換

【主な発言】

（１）子育てしやすい環境づくりについて

- 参加者 黒川中学校へ子供が自転車通学しているが、熊や猿の心配や、また天候事情によって学校から「なるべく保護者に送迎してほしい」といった通知が来ることがある。都度対応するのが大変なので、通年バス送迎にしてほしい。
⇒議員 黒川地区の一部地域では、保護者からの要望によりクマや猿被害から生徒を守るため、昨年から通年バス通学に変更した。
- 参加者 以前と比べ最近は気温が高くなっているので、中学校の体育館にエアコンを設置してほしい。生徒の熱中症対策になるし、また、災害時は市民の避難所にもなっている。
⇒議員 エアコン設置について議会でも一般質問などで取り上げてきた。教育委員会では先進地視察を行い、今年は基本設計が進められる。
- 参加者 3 人の子どもが市外の高校に通っているため、毎日中条駅へ送迎している。特に帰りは時間がバラバラで何度も迎えに行かなければならないので、中条駅までのバスがあると助かる。
⇒ 議員 のれんす号は利用できないか。
⇒ 参加者 何度か利用したことはあるが、通常 10 分の距離なのに 40～50 分かかって使い勝手が悪かった。
⇒ 議員 利用時間も夕方 6 時までである。

(2) 医療、福祉の充実について

○参加者 市内には受診したい診療科が少なく、市外の病院に通っている。また、総合病院へ受診したいと思っても紹介状が必要で、思うように受診できず不便である。

⇒議員 県立新発田病院は急性期の病院であるなどそれぞれの役割がある。とりあえずは個人病院や中条中央病院を受診し高度な病院には、かかりつけ医の紹介によって受診する仕組みになっている。

○参加者 介護保険を申請して判定が出るまで 30 日以内になっていると思うが、実際にはそれ以上の日数を要している。判定前に介護保険を利用できるが、早くできないか。

⇒参加者 新潟市で包括支援員をしているが、新潟市では認定調査までに 1 月から 1 月半を要し、調査員を増員するなどの対策をしているものの、認定が出るまでに 2 か月要している状況。

○参加者 精神障害 2 級を受けている。市内障害者通所施設で働いたり、一般就労もした。他市の B 型で働いたが交通費がもらえず生活が苦しい。

○参加者 NP0 法人ふるさと奥山の荘で、のれんす号を利用できない要支援 1・2 の方を対象に受診や買い物などの移動支援をしている。最初は利用者が少なかったが、現在、約 40 人が利用している。料金は 2 キロまで 300 円、1 キロ超えると 50 円増。運転手を 6 人確保して車 4 台で運行している。運行範囲が市内限定のため、坂町病院へは行けないが利用者からの要望がある。

○参加者 市内に障がい者を受け入れてくれる施設がもっとあるといい。あっても受け入れ時間に制限があるなど、障がい者の居場所がなく、場合によっては、親は仕事を辞めなければならない。

(3) 健康づくりの推進について

○参加者 物価高により安かろう、悪かろうの商品を買うことで健康面に悪影響が出ないか心配になる。

○参加者 健康診断を受ける人を増やしてもらいたい。

○参加者 新潟市では、デイサービスの新しい取組として、商業施設（イオン）で半日運動し、その後、同施設で買い物をして帰宅するというメニューを実施してい

る。とてもいい取組だと思うので、胎内市でも実施できたらいいと思う。

○参加者 高齢者の医療費を増やさないためにサロンを生かして健康を増進させ、医者にかからないようにできると良い。

⇒議員 市内にはサロンのほか通いの場も集落ごとに立ち上がり、健伸館のように誰でも利用できる施設もある。そこを積極的に利用することで健康増進につながり医療費が削減され、介護認定率も減少している。

○参加者 旧黒川体育館が解体され、黒川地区では屋内スポーツができるところがなくなった。黒川小学校の体育館は一般には開放していない。健康増進の観点から体育施設を考えてほしい。

(4) その他

○参加者 のれんす号は予約が面倒。もっと使い勝手のよい方法があるとよい。また、1回300円でも、利用頻度によっては意外と大きい金額になる。

○参加者 新発田市のコミュニティバス「あやめバス」の様なバスを運行できないか。聖籠町でも駅、学校、病院、ショッピングを廻る小型バスが運行している。

○参加者 学校での水泳授業が年2回程度と少なくなっている。スイミング授業の回数を増やし、自分を守るための泳ぎができるように、もっと関心を高めてほしい。

○参加者 地域の側溝清掃を年1回しているが、業者への委託料が高額になってきて、市からの補助金だけではとても追いつかない。